

令和6年12月13日

白老町議会
議長 小 西 秀 延 様

産業厚生常任委員会
委員長 森 哲 也

所管事務調査の結果報告について

本委員会は、所管事務調査を終了したので、その結果を次のとおり報告します。

記

- 1 調査事項 (1) 常任委員会
白老町新水道ビジョン・経営戦略について
(2) 分科会
白老ふれあい食堂実行委員会“ウタル”との懇談
- 2 調査の方法 (1) 常任委員会 事務調査・現地調査
(2) 分科会 活動視察・懇談
- 3 調査日程 (1) 常任委員会
令和6年10月10日(木) 事務調査
令和6年11月26日(火) 事務調査・現地調査
(2) 分科会
令和6年11月9日(土) 活動視察
令和6年11月13日(月) 懇談
- 4 出席委員
委員長 森 哲 也 副委員長 飛 島 宣 親
委員 水 口 光 盛 委員 田 上 治 彦
委員 氏 家 裕 治 委員 西 田 祐 子
委員 前 田 弘 幹

5 説明のために出席した者の職・氏名

上下水道課長	山本康正	上下水道課主幹	岩本寿彦
上下水道課主幹	鈴木司	上下水道課主幹	山崎英文
上下水道課主査	藤澤晃	上下水道課総括主任	河原井久生
上下水道課主事	吉井雅晴		

6 分科会懇談のため出席した者の職・氏名

白老ふれあい食堂実行委員会“ウタル”との懇談

代 表	井原美智子様	井原正樹様
	一戸エミ子様	佐々木敏様
	谷野絹子様	丸山俊恵様

7 職務のために出席した者の職・氏名

主 幹	小山内 恵	一般事務職員	白綾美紀
-----	-------	--------	------

8 調査結果

(1) 常任委員会

【水道事業の現状と課題について】

本町の水道事業は、昭和44年に白老浄水場の供用を開始し、工場等の進出に伴う人口増及び水洗化普及による水需要の増加に対応すべく、昭和46年に虎杖浜第1浄水場、平成2年に虎杖浜第2浄水場、平成8年に虎杖浜第2浄水場ヒ素処理棟が新設され、山間部を除く町内ほぼ全域に安全で良質な水道水が安定的に供給されている。

近年、人口減少や節水器具の普及等による水需要の低迷に伴い、水道事業の根幹である使用水量及び料金収入が減少傾向で推移している中、施設や管路の多くが老朽化しており、令和4年度時点の浄水場・配水池の耐震化率は0.0%、管渠耐震化率は約20.7%であり、これらの更新や耐震化には整備計画の試算として137億9,952万1,000円の費用が見込まれている。

また職員数の減少や技術の継承、人材育成等、水道事業を取り巻く環境は年々厳しくなっている。

【白老町新水道ビジョン・経営戦略の概要について】

白老町の水道料金は平成2年4月の改定を最後に、これ以降は平成23年1月に策定された「新財政改革プログラム」に基づき、基本料金300円(税抜き)の引下げを実施してきた。

また高齢者や単身世帯に配慮し、基本料金水量8立米に5立米を加えた2段階方式の基本料金制を導入している。

今後は施設や管路の老朽化に伴う更新、耐震化などの災害対策を計画的に進める必要があるが、現行の料金体系で経営を続けると令和8年度には資金残高が底をつく見込みである。

将来にわたり安定した水の供給と、50年後、100年後を見据えた水道事業の理想像として、安全（全ての町民が、いつでもどこでも、水をおいしく飲める水道）、持続（給水人口や給水量が減少した状況においても、健全かつ安定的な事業運営が可能な水道）、強靱（自然災害等による被災を最小限にとどめ、被災した場合であっても、迅速に復旧できるしなやかな水道）な水道を実現するための推進方策及び経営の効率化・健全化の方向性と経営基盤の強化策が示されている。

【委員会意見】

第1に、組織体制の強化が必要である。水道事業には土木・機械・電気などの技術分野と企業経営に精通した人材を育成することが重要である。町内では労働人口が減少している状況下だが、持続可能な水道事業を運営していく上では、白老の水道の歴史において培った技術の継承や人材の確保と育成に取り組むことが重要である。

第2に、水道料金の大幅な引上げは抑制すべきである。「白老町新水道ビジョン・経営戦略」における収支見通しでは、水道料金を改定しない場合、収益的収支が令和8年度以降赤字となり、現金預金についても令和9年度にはマイナスとなるため、安定した経営が困難な状態になることが予測されている。

収支ギャップを解消するため料金改定を行った場合のシミュレーションでは、令和7年度に48.6%、令和12年度に40.9%の料金改定を行うと、令和9年度以降の収益において赤字解消が見込まれている。

水道事業の原則は、水道料金収入を主な財源とする独立採算での経営であるが、人口減少や施設の老朽化の状況から事業の継続が困難となることが推察される。

水道事業は生活に必要なライフラインであり、健全な経営を維持するためには収入について見直す必要があるが、シミュレーションどおりの料金引上げは町民生活や事業経営への多大な影響が懸念されることから、他の財源確保策を検討し、大幅な料金改定は抑制すべきである。

(2) 分科会

産業厚生分科会は、白老ふれあい食堂実行委員会“ウタル”の活動視察及び懇談を実施した。その内容については、別紙活動報告書のとおりである。

産業厚生分科会の活動報告書

令和6年11月23日

産業厚生常任委員会
委員長 森 哲也 様

産業厚生分科会
主査 飛島 宣親

本分科会は、委員会の広聴活動として下記団体との意見交換を終了したので、以下のとおり報告いたします。

団体名： 白老ふれあい食堂実行委員会“ウタル”（参加者7名）

日程・会場	【活動視察】 令和6年11月 9日(土) 白老ふれあい食堂“ウタル” 午後0時～午後1時 【懇談】 令和6年11月13日(月) 議会第1委員会室 午後1時55分～午後3時12分
懇談テーマ	1. 活動状況と課題について 2. 議会や行政への意見・要望等について
出席委員名	主査 飛島 宣親 副主査 森 哲也 委員 水口 光盛 委員 田上 治彦 委員 氏家 裕治 委員 西田 祐子 委員 前田 弘幹
意見・要望事項	下記のとおり
活動報告 (処理・対応含)	1. 活動状況と課題 ・資金面では、定期的に支援してくれる企業もあるが、足りない分は寄附を募ったりNPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえが紹介する支援金募集に応募したりして、何とかきりぬけている状況。 ・町内様々な企業から食材の提供を受けているほか、近所の方やスタッフからも家庭菜園の野菜などの提供を受けている。食材を無駄にしないようメニューや保存方法を工夫し、フードロスはない。

- ・白老宏友会の厚意により、「はぁもにい」の調理場と設備を無償で活用させてもらっている。
- ・理想は毎週土曜日の実施だが、月2回が限界の状況。
- ・利用する子供達に喜んで貰えるよう年間を通して様々な行事やイベントを開催している。
- ・食堂を利用している受験生のため約3か月間毎週土曜日に学習会を行い合格に至った実績がある。現在は月2回の学習会を継続し、子供たちの学力向上を支援している。
- ・こども食堂があることを知っている子供は多いと思うが、必要な子供に十分に周知できていないと感じている。
- ・卒業や部活動など様々な要因で足が遠のいてしまい、利用する子供が減少傾向にあり、どのように呼び掛けていくかが課題。
- ・スタッフの高齢化が進んでおり、成り手不足が課題。

2. 議会や行政への意見・要望等

次のような意見課題・要望が挙げられた。

- ・鉄南地区の子供たちにももっと利用してほしい。
- ・運営安定のため、行政からの継続的な支援が受けられないか。
- ・会の運営が町の補助金要綱に沿わないところがあり、補助金は申請していない。ふれあい食堂の実態や実情を知っていただき、柔軟な対応をお願いできないか。
- ・昨年より町から年1回新米5キロを寄贈していただいている。継続的な支援をお願いしたい。

3. まとめ

こども食堂に食材を提供できる企業を募る、子供からお年寄りまで誰もが気軽に足を運べるようこども食堂の活動を町広報誌で紹介するなど、行政からもこども食堂の活動を伝えていく必要がある。

こども食堂の活動継続には安定した資金支援が必要であり、町は、こども食堂を必要としている子供たちのためにも、補助金要綱を見直すなど、こども食堂が活動を継続していけるよう、活動に対する継続的な支援を検討する必要がある。